

# 父親たちの星条旗

Flags of our Fathers

鑑賞日：2016・10・24

制作 2006年 米

上映時間 132分

監督 クリント・イーストウッド

脚本 ウィリアム・ブロイレス・Jr、ポール・ハギス

出演 ライアン・フィリップ、ジェシー・ブラッドフォード、アダム・ビーチ

## (あらすじ)

ウィスコンシン州で葬儀屋を営むひとりの老人が死んだ。彼の名前はジョン・ドク・ブラッドリー（ライアン・フィリップ）。1945年海軍の衛生兵として硫黄島の戦闘に参加し、海兵隊員と共に激戦を戦い、そこで撮られた一枚の写真によってアメリカ中から“英雄”として讃えられた男である。しかし、彼はその後の人生において硫黄島についてはひとことも語らず、アメリカ中に知れ渡った写真についてもひたすら沈黙を押し通した。硫黄島で何があったのか、なぜ、沈黙を続けたのか。父親の人生を知るために、彼の息子は硫黄島の真実を辿り始める。

太平洋戦争の末期、硫黄島に上陸したアメリカ兵は、予想をはるかに上回る日本軍の防戦に苦戦を強いられ、姿の見えない敵の脅威にさらされていた。壮絶をきわめる戦闘の中、摺鉢山の頂上に立った星条旗。その一枚の写真がアメリカ中を熱狂させ、6人の英雄を生み出した。星条旗を掲げた6人の名前は、マイク（ハリー・ペッパー）、フランクリン（ジョセフ・クロス）、ハンク（ポール・ウォーカー）、レイニー（ジェシー・ブラッドフォード）アイラ（アダム・ビーチ）そしてドク。しかし、硫黄島から生きて生還したのは衛生兵のドク、アメリカン・インディアンの出自を持つアイラ、伝令係のレイニーの3人だけだった。祖国に帰還した3人は戦費を工面するためにアメリカ全土を巡る戦時国債キャンペーン・ツアーに狩りだされた。どこに行っても熱烈な喝采を浴び、国民的英雄としてまつり上げられる3人の生還者たち。しかし、英雄扱いされればされるほど、彼らの苦悩は深まった……

## (解説)

原作は生還した“英雄”のひとりドクの息子ジェームズ・ブラッドリーとロン・パワーズによって書かれた。この本に惹きつけられたのはクリント・イーストウッドだけではない。スティーブン・スピルバーグは映画化権を獲得し、製作に携わり、『クラッシュ』でアカデミー作品、脚本賞を得た、ポール・ハギスが脚本を書いたのである。イーストウッドは、戦争の真実を知るためには敵、味方双方から描かねば分らないとして、日本側に視点を置いた『硫黄島からの手紙』を作り、アメリカ側の映画として本作品を送り出したのである。映画は三つの局面から成り立っている。硫黄島戦闘の場面、生還した3人の戦時国債キャンペーンの場面、3人の戦後の生き方の場面だが、映画は順を追って展開せず、三つの場面が錯綜して展開される。イーストウッドは戦場の場面はドキュメンタリータッチで描き、帰国して客寄せパンダの役割を負わされた3人の戸惑いと悩みを通して、茶番劇を繰り返すアメリカ社会の現実をも見据えている。硫黄島の戦いで一命を落とした約6800名の若者たちは、戦友のために死んだのだとイーストウッドは海辺で童心に戻って戯れるラストシーンで物語っている。